

巻 頭 言

新型コロナウイルス感染症に翻弄された3年余を経て、2023年5月8日をもって2類相当から5類感染症へと感染症法上の位置付けが移行されました。感染対策は国民の個々の自主的な取り組みが基本とされ、街ではマスクの着用も半数ほどになり、宿泊業や旅行業はコロナ以前を超えるほどに回復してきたとの報道もあります。しかし、病院内に目を向けると相変わらず持ち込みと思われるコロナ陽性者が発生し、同室者に感染が波及するケースもみられ、緊張感は一定程度持続している状況です。また、ランサムウェアによる病院のシステムダウンのケースが次々と報道され、サイバーセキュリティへの対策が新たな課題として突きつけられています。



加古川中央市民病院は2016年7月の開院時に、消化器センター、心臓血管センター、こどもセンター、周産母子センター、がん集学的治療センターの5大センターを開設しました。そして今年の1月からは呼吸器センターを新たに開設し、6つの診療センターを中心に33の診療科で高度専門医療を実践しています。コロナ禍においても高度専門医療の提供を継続し、病院の総合力で救急医療に取り組むことで救急車受入件数(8,254件/年)はコロナ禍以前よりも増加しました。手術支援ロボットによる手術も泌尿器科領域に加えて呼吸器領域、消化器領域にも導入し、循環器領域ではTAVIに加えて新たにMitraClipを導入し安全に運用されています。昨年度、1,083例の新型コロナウイルス感染症患者を入院診療し、うち小児・周産期領域では、各々347例、53例と圏域を越えた受け入れにも幅広く応えてまいりました。がん診療においては、国のがん診療連携拠点病院として診断と治療の充実をはかると同時に、がん相談支援室では認定がん相談支援センターとして活動を開始しました。また、来年4月より始まる医師の働き方改革、医師の時間外労働の上限規制に向けては、時間外労働の把握に始まり、タスクシフト/シェアをはじめ様々な取り組みを実施し、特例水準の診療科を医療機関勤務環境評価センターへ申請し、承認されたところです。

2023年6月には、新型コロナウイルス感染症への対応を含め、地域医療の確保及び向上への貢献と健全経営に対して「令和5年度 自治体立優良病院 総務大臣表彰」をいただくことができました。行政、地域の医療機関や介護施設ならびに地域住民の皆様のご理解とご協力のおかげであり、改めまして感謝申し上げます。

加古川市民病院機構学術誌第12号には、2022年度の病院概要並びに職員の論文や学会発表などの研究業績が盛り込まれています。ご覧いただき忌憚のないご意見を頂ければ幸いです。最後に、本誌の取り纏めにご尽力頂いた編集委員や職員の方々に深謝申し上げます。

2023年8月

加古川市民病院機構 理事長
加古川中央市民病院 院長
大西 祥 男